

3月田原市議会後記

地方政治
クリエイト

伊藤 秀昭

■土地利用施策
人口減少時代の土
地利用について質問
したのは大竹正章氏
(市民クラブ)。
大竹氏は市街化調
整区域に市民の3分
の2が住んでいるこ
とから、都市計画区
域区分線引き制度は
必要かと問題提起
して、人口減少の中
での集落の維持・発
展のために土地利用
計画、マスタープラ
ンをもっと活用し、
まちづくりを推進す
べきと提案した。山
下市長は開発行為の

許可権限を県から移
譲を受けて、田原市
自身で責任もって取
り組めるようにする
ために努力していき
たいとした。
耕作放棄地や空き
家などが目立つ田原
市の土地利用は大切
なテーマ。それだけ
に、議論をもっと下
寧に。
■ごみの分別・資
源化
河邊正男氏(共
産)は財政が厳しい
中で、市民と行政の
力でごみを資源化
し、炭生館の活用と

焼却炉を持たないご
み行政への転換によ
って、浮いた財源を
教育・福祉の充実に
向けたいどうかと持
論を展開した。
市民環境部長は
「炭生館は単にごみ
を焼却するだけでな

あり、当局は態度を
変えなかった。
■ふるさと納税
荒木茂氏(自民ク
ラブ)は田原市でも
もっとふるさと納税
を活用すべきだと取
り上げた。
政策推進部長は、

取り組んでいくと答
えた。
荒木氏は田原市民
も返礼品の対象とす
ることを提案し、群
馬県中之条町の温泉
宿泊とセットにした
取り組みなどを紹介
し、田原市に来てい

子どもを一時的に預
かる「病児・病後児
保育」は不可欠であ
ると、その整備・実
施実現を要請した。
健康福祉部長は実
施に向けて取り組ん
でいるとして、実
施場所や職員の配

クラブは、オリン
ピックのサーフィン
会場の誘致と赤羽根
地域の整備計画につ
いて聞いた。
都市建設部長は誘
致活動を積極的に展
開していることや、
「田原市赤羽根海岸

性も出てきたと明か
した。
また赤羽根市街地
についても区画整備
の動きが出てきたこ
とも報告した。
■組織・機構改革
杉浦文平氏(無所
属)は機構改革につ
いて聞いた。
特に杉浦氏は豊橋
市の首都圏活動セン
ター内に併用する形
で田原市が東京事務
所を開設することか
ら、機能性やプロモ
ーション活動の角
度から適否を議論
していたが、なるべ
く早く東京の事務
所やアンテナショ
ップなどの現場を、
自らの足で多角度

から調査されるよ
う望みたい。
◇
3月6日(日)に、
田原市福江の「免々
田川菜の花まつり・
桜まつり」に行き、
春の到来を感じてき
ました。そのイベン
トの陰で黙々と運営
に携わる議員諸氏の
地域密着の姿に感銘
を受けました。
一方今回、12人の
議員が代表・一般質
問に登壇したが、に
やにやして質問を始
めた議員がいた。本
会議場は議員にとっ
て真剣勝負の場であ
り、戯れは無用。緊
張感と責任感が欠如
していないか。

本会議場は真剣勝負の場

く再生処理施設でも
ある。また衛生面か
らも焼却炉を持たな
いごみ行政は考えて
いないと答えた。河
邊氏は生ごみの堆肥
化で焼却炉を持たな
いごみ行政が可能だ
と食い下がったが、
最終処分場の問題も

田原市では2万円以
上寄付された市外の
方には「渥美半島探
れたて野菜便」を贈
っているが、田原市
民が他の自治体に寄
付する額が多くなっ
ていることから、「田
原市ふるさと納税推
進会議」で積極的に

ただく方策を要請し
た。同部長は「来年
度は6000万円を
目標にしっかりと頑張
る」と決意表明した。
■病児・病後児保
育
辻子氏(公明)は
仕事と育児の両立を
支援する観点から、

備、緊急時の医療機
関との連携の3点が
課題になっていると
答え、市内の医療機
関と協議し、実現に
向け努力すると約し
た。
■赤羽根地域の整
備
渡会清継氏(自民

整備計画)に基づき
サーフィンを最大限
に生かせるまちづく
りに取り組んでいく
とした。
さらに弥八島周辺
の整備については、
民間事業者からの活
用の申し出もあり、
本格的な整備の可能

性も出てきたと明か
した。
また赤羽根市街地
についても区画整備
の動きが出てきたこ
とも報告した。
■組織・機構改革
杉浦文平氏(無所
属)は機構改革につ
いて聞いた。
特に杉浦氏は豊橋
市の首都圏活動セン
ター内に併用する形
で田原市が東京事務
所を開設することか
ら、機能性やプロモ
ーション活動の角
度から適否を議論
していたが、なるべ
く早く東京の事務
所やアンテナショ
ップなどの現場を、
自らの足で多角度

から調査されるよ
う望みたい。
◇
3月6日(日)に、
田原市福江の「免々
田川菜の花まつり・
桜まつり」に行き、
春の到来を感じてき
ました。そのイベン
トの陰で黙々と運営
に携わる議員諸氏の
地域密着の姿に感銘
を受けました。
一方今回、12人の
議員が代表・一般質
問に登壇したが、に
やにやして質問を始
めた議員がいた。本
会議場は議員にとっ
て真剣勝負の場であ
り、戯れは無用。緊
張感と責任感が欠如
していないか。